

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 1272100502 | | |
| 法人名 | 株式会社ヘルスケアナラシノ | | |
| 事業所名 | グループホーム津田沼 | | |
| 所在地 | 千葉県習志野市藤崎4-10-8 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年12月1日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年6月16日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと | | |
| 所在地 | 千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7 | | |
| 訪問調査日 | 令和5年3月10日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は閑静な住宅街のあり、近隣には小学校や幼稚園、そして公園も多く、緑豊かな季節を感じられる環境にある。コロナ禍により、地域行事や町内会の活動は参加出来ていない。コロナ前の生活にまだ戻らないが、職員は常に「お元気で、明るく楽しく、心豊かに過ごしましょう」を念頭にご利用の笑顔絶やさないでお過ごしいただけるよう工夫している。又、日常生活ではご自身で出来る事を見出し、継続して実行できるように支援している。対面型ユニットの特性を活かして、職員やご利用者の往来を行いながら、余暇活動に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの日々の表情や顔色などから思いや体調を把握し、職員間で共有して、理念である「お元気で明るく楽しく心豊かに過ごしましょう。」を実現するように努めている。個別活動を大切に、趣味、特技を見つけ出して、折り紙、塗り絵、囲碁などを個別に出来るように支援している。排泄についても自立支援に努めており、職員間で情報を共有して取り組んでいる。トイレに座ることを大切にして支援しており、日中はほとんどの利用者がトイレを利用している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「元気で明るく楽しく心豊かに過ごす」という分かりやすい理念は、入口正面やリビングの見やすい所に掲示して意識している。 | 理念はエントランス正面、リビングの見やすいところに掲示しており、日々の申し送り時や毎月のホーム会議で職員間で共有して、利用者が「元気で明るく楽しく心豊かに過ごす」の実現に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ禍でいろいろな行事等も中止となり、利用者が直接地域とつながる事がなくなったが、散歩は継続している。近隣の方と会った際は気持ちのいい挨拶を心掛けている。 | 町内会に加入し、回覧板で地域行事を共有している。現在は感染対策のため行事に参加することは出来ていないが、今年度は、ホームで夏祭りや、餅つき大会を計画している。職場体験で施設を訪れたことがある小学生と散歩中に出会うと、挨拶をしてくれる。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議開催時は民生委員の方や町会長にも参加して頂き、ホーム内のお話しをしながら認知症の方の理解を得られるようコンタクトをとっている。会議の中止が度重なり、現状は困難である。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている | コロナ禍の中、いまだ会議の開催を見送っている現状である。 | 年6回の運営推進会議を予定しているが、感染対策のため書面開催としており、地域包括支援センター、家族代表、地域住民が参加している。施設の状況報告をして、意見を受けて議事録を作成している。 | 家族全員に運営推進会議の開催を通知して意見をもらい、意見を検討して議事録としてフィードバックするなど、運営推進会議の周知に努めことを期待する。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | コロナ禍により、介護相談員の来設は自粛となっている。介護サービス連絡会開催時には参加しながら他事業者との情報共有に努めている。 | 介護保険課、高齢者支援課などに必要に応じて相談をして、助言を得ている。市のグループホーム連絡会にも参加している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止委員会を3か月に1回行い、職員は、研修等で言葉による拘束も含め身体拘束について正しい理解が出来るようにしている。身体拘束をしない適切なケアに取り組んでいる。 | 身体拘束廃止委員会を3か月に1回開催している。「身体拘束はしない」をホームの方針として、鍵を掛けない、言葉の拘束をしないを職員間で共有している。不適切と思われる言動がある場合は、職員間で注意し合ったり管理者が直接伝えることもある。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 管理者や職員は高齢者虐待防止関連について研修を受けている。言葉の虐待を始めケアを行なう中で虐待と思われる行為がないか、職員全員がお互いに注意を払い、気づいた点があれば申し送り等で報告し虐待の防止に努めている。 | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 職員に資料配布や外部研修や内部研修に於いて学ぶ機会を設け、現場でも勉強会等を設け理解が出来るように努めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時の契約や入居後も、入居者や家族の不安や疑問には十分な説明を行っている。納得してご入居できるよう努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 定期的に事業所に訪れていた市の介護相談員も、ご家族も、コロナ禍で面会等の制限があるので、ご意見等伺う機会がなくなっている。 | 来訪時や電話連絡時に、意見を聞くようにしている。面会時間を15分では短いので30分にしてほしいとの意見があった時は、丁寧に説明し、理解を得た。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 各職員の意見は随時取り上げて、朝の申し送り、夕方の申し送り、ミーティングで意見交換が出来る環境作りを行っている。 | 毎月のホーム会議では、積極的な意見が出ている。毎日の申し送り時にも、利用者の食事形態について意見が出るなどしており、検討して変更した例もある。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の努力や実績、勤務状況を把握するように心掛けおり、全職員がやりがいや向上心を持って働けるように努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内での研修は現在自粛としているが、感染予防対策を徹底した上で、開催を目指している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ禍により、他事業所との交流は行われていないが、オンラインでの交流を含め検討したいと思っている。 | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前より情報収集を行い、本人の想いに寄り添い、ホームで安心して生活できる所だと心理して頂けるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 面会時や電話等(面会に来られない)にてホーム内での様子を説明しながら、ご家族等が困っている事や要望等を聞き家族との良好な関係作りに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所時は不安な状態なので、本人・家族の意向を十分に受け止め、本人が安心して施設サービスが受けられる様に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者一人ひとりの出来る事、やりたいことなどを見定め、日常の生活の中で食事の片付け、洗濯物をたたむなど本人が今出来る事を自然に手伝う家族の様な関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 日常の様子を毎月便りや、面会時に説明して施設での生活状況を把握して頂き、職員では成せない事を家族に協力を得て、本人、家族が絆を深められる様に努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本来ならば今までの関係が途切れないように支援を継続したいが、コロナ禍により、外出を自粛して頂いている。面会は対面で15分の制限があり。 | 病院以外は、コロナ禍前のように家族等と外出することはできていないが、手紙や年賀状を出したり電話の取次ぎなど、関係継続の支援をしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者間の関係を把握し、孤立しないよう関わり合いをして支え合うよう、席などを調整している。また利用者が他の方に声かけをして、交流を深めていけるよう努めている。 | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後も家族からの相談に随時行っている。必要に応じて面会も行い、本人・家族の身心的なフォローを行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人や家族から生活歴、生活習慣、趣味、意向等をよく聞き、入居者が発した言葉や行動から入居者の気持を探りながら、本人の思いや意向の把握に努めている。 | 利用者の思いは入居時に聞き取るようにしており、入居後は居室担当職員が把握に努めている。職員は、表情をよく見て小さなことを見逃さないように努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居の際、本人や家族から入居前の生活歴、暮らし方を聞き、出来る限り今までの生活に近い過ごし方をして頂けるよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日常生活の中で声掛けや見守りを行いながら一人ひとりの現状を把握できるように努めている。自立支援を心掛け残存機能の活かせるように支援を行っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人、家族から要望や意見を聞き取り介護計画に反映させている。職員は入居者の情報を共有し実践出来るよう努めている。 | 入居時に、介護支援専門員が家族や本人に聞き取りをして計画に反映できるようにしている。入居後は居室担当職員などから状況を聞いて、入居後3か月で見直し、その後は6か月に1回見直しをしている。食事が採れなくなるなど、状況に変化があれば、その都度見直しをおこなっている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 入居者身心状況や日常の様子等を介護記録に記入し情報を共有しながらケアを行い見直しやモニタリングに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 入居者一人ひとりの状況を把握して本人や家族の状況、その都度生まれるニーズにできる限り対応できるように、職員一同柔軟な支援やサービスに努めている。 | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 町内会の回覧板を通して、地域交流が図れるよう情報を得ている。現状ではコロナ禍が終息しているとは言えない為、季節感が感じられるよう支援を行う。例えば車窓からの景色やドライブなど。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時にかかりつけ医を確認し、受診が必要な場合には速やかに対応できるように、普段から連携をとっている。 | 月2回の訪問診療と週1回の訪問看護で利用者の健康管理をしているが、もともとのかかりつけ医を受診する利用者もあり、家族が対応している。内科の他に眼科、歯科の訪問診療もあり、必要に応じて受診をしている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 毎日の健康チェックや観察で利用者の身体状況を把握し異変を感じたら訪問看護師へ報告、指示を受け対応している。主治医や家族に報告し適切な受診や看護を受けられるよう努めている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時に介護サマリー、退院時には看護サマリーにて病院関係者との情報交換や相談を行い、入院後も早期に退院できるよう努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居の契約の折にもターミナルケアについて説明を行い、入居後の体調変化には、その都度ご家族と話し合い、現状の説明や方向性を確かめている。 | 「グループホームにおけるターミナルケア」という指針を作り、終末期の判断からの流れが分かりやすく説明されている。また、意思確認書で「最期をどこで迎えたいか」などの質問に加え、家族の希望等を聞いている。昨年度は3名の看取りをおこなっており、コロナ禍ではあったが、家族に来てもらい支援した。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ご利用者の急変・事故時に備えて訪問看護事業所と連携できるような情報共有している。応急処置や初期対応の訓練を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練を年2回行い、入居者も一緒に参加している。昼夜問わず避難できる方法を身につけている。各居室に蛍光色の救護区分を表示している。 | 併設のデイサービスセンターと合同で年2回の避難訓練を実施しており、利用者も参加している。消防署からは火元と反対側のベランダに避難して救助を待つように言われている。また、法人内部に自衛消防隊を設置しており、当ホームの管理者が隊長を務めている。 | 備蓄としては水があるが、ローリングストックで食料なども検討することもよいと思われる。また、BCPを視野に入れ、感染症を含め、さまざまな災害を想定しておくことも必要と思われる。 |

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの人格の尊重、プライバシーの配慮については、職員全員で対応できていると思っている。 | 利用者は人生の大先輩であることを意識するようにしており、言葉遣いや態度には気を付けている。気になる言葉遣いなどがあつた場合は、管理者がその場で注意するようにしている。プライバシーにも配慮し、居室に入る時には必ず本人に断ってから入室している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の思いや希望がいつでも自己表現出来るように、日常的な生活の中で常に職員は傾聴が出来る環境に努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ご本人のペースに合わせ可能な限り対応を行っているが全ての入居者の希望に添って過ごす事は難しい。訴えの中で可能な限り、業務優先ではなく希望を取り入れるように努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 整容についてはご自身で用意出来る方は洋服を選んで頂き、困難な方には話を聞いて『よく似合ってますよ』と声がけしながら本人の意識を促し支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | ご利用者の出来る事を一緒に行っており毎日の食事も見た目にも楽しめるように配慮を行い、盛り付け等にも工夫している。家事参加として食器拭きや片付けをされている。 | 調理済みの食事を取り寄せているが、ご飯と汁物はホームで作っており、盛り付けの食器や彩りなどに配慮して美味しく食べてもらえるようにしている。利用者もテーブル拭きなど、出来るところに参加している。コロナ禍前はレクリエーションの一環で外食にも行っていたので、再開が待たれる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事や水分量は一人一人の食事形態や、食事摂取量を把握して、記録し常に必要な栄養が摂取出来るように支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後には、入居者全員の口腔ケアの徹底して行っており、常に清潔が保たれるように支援している。拒否される方には時間をずらし対応するなど努めている。口腔内の問題点がある時は訪問歯科への往診も行っている。 | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄パターンを把握して、トイレ誘導やパッド交換を行っている。トイレでは自立に向けた支援を行っている。 | 自立に向けた支援に力を入れており、利用者にはトイレに座ることを大切にして支援している。現在、日中はほとんどの利用者がトイレを利用している。入居時におむつをしていた利用者を少しずつトイレに誘導している間に、便通が改善した事例もある。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄チェック表用いて、排便(-)の把握をして、食事や水分、服薬にて調整し、歩く程度の運動を行い定期的に排便出来るように支援している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴日としての曜日は決めさせて頂いているが、拒否のある方には足浴、手浴、清拭など臨機応変に対応し工夫している。 | お風呂は家庭的な個浴で、週2回の入浴を基本としている。入りたくないという利用者には職員を変えたり、利用者が入りたいというタイミングで入ってもらうなど工夫している。入浴は、職員が利用者とのコミュニケーションを図る時間にもなっている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人一人の睡眠パターンを把握し、適切な生活のリズムが整うように日中の活動支援を行いながら、夜間気持ち良く睡眠がとれるように支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 入居者の服薬管理表により、薬の内容は把握されている。チェック表を用いて誤薬防止に努めている。薬変更時は申し送りノートにて連絡し確認する。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々の趣味や好きな事、得意な事、興味がある事を把握に努め、洗濯物たたみ、家事手伝い等役割を担って頂き、職員も感謝の気持ちを忘れずに共同生活の楽しみを共有している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い日は出来る限り散歩に行き、気分転換を図るようような支援を行っている。コロナ禍により、外出は自粛して頂いている。 | コロナ禍で外出を自粛してはいるが近隣の散歩には出かけており、近くの広場のベンチで休んだり、犬の散歩をしている近隣住民や他の施設の人たちとあいさつを交わすなどしている。 | |

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人が金銭の管理ができれば、ご家族との相談の上、ある程度の現金を持って管理して頂くようにしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族や大切な方と手紙や電話のやり取りができるようにしている。また職員が窓口となり電話がかけられるように対応している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節に合った飾りつけにより四季を一人一人が感じられ居心地の良い空間であるように努めている。又安全面での配慮も行い環境整備にも努めている。寒気の時期は床暖房で温度調整に努めている。 | 共用空間は明るく、テーブルやいすの他にソファなども置いてくつろげるようにしている。室温にも配慮し、快適に過ごせるようにしており、訪問時もゆったりと過ごす利用者の姿が見られた。また、職員が季節の花を持って来るなど、季節が感じられるようにしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共同空間で仲の良い入居者同士でお話したり、一人でのんびり過ごしたり、休息の場所にししたり、その方のスタンスを大切に、居心地良い空間にしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 住み慣れた家で使っていた物を持ち込んで頂いている。写真や飾りつけ等はご家族と職員で行い、居心地良く過ごせるように工夫している。 | 入居時に、持ってきたいものを持ってきてもらうよう伝えており、仏壇、テーブル、いす、テレビ、ぬいぐるみなど思い思いの品を持ってきて、それぞれ落ち着いて過ごせる居室にしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人一人の出来る事や分かる事の能力を把握し、本人の出来る事をして頂いている。自立支援を心掛け、安全に出来るような環境作りを行っている。 | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと